

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2674100272		
法人名	社会福祉法人 洛和福祉会		
事業所名	洛和グループホーム音羽		
所在地	京都府京都市山科区音羽森廻り町34-8		
自己評価作成日	平成30年9月1日	評価結果市町村受理日	平成31年2月14日

音羽児童館の子供たちと夏祭りやクリスマス会で交流している。音羽小学校から新聞を届けていただいたり、運動会へのお誘いを受けている。また、音羽川小学校6年生を対象に認知症サポート講座を開催したり、次世代に泣いて事業で、大宅家小学生3年生体験額数を受け入れている。いる。その他、地域行事に参加することでホームの理解に努めている。
ご利用者は、なにごとにも共に行い共に過ごす時間を大切にしながら、じっくりと向き合い、傾聴すること、利用者さまのペースを大切に、想いに添ったケア・思いやりのケアに努めています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JirvosyoCd=2674100272-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは利用者が重度化する中で徐々に外出が困難となっていますが児童館の子ども達とは夏祭りやクリスマス等の行事毎に継続した交流があり、ヨーヨー釣りやすいか割り等を共に楽しんだり、食事面では流し素麺や焼き肉パーティー、出張寿司に来てもらう等季節感や好みを取り入れたメニューを工夫し食べる事や行事等を楽しめるよう工夫をしています。長く務める職員が多く利用者や家族が安心できる馴染みの関係を築くと共に職員間も良好な関係を築きより良いケアに向けて意見を出し合っています。また毎月認知症の勉強会を行う等職員への研修体制も整い、スキルアップを図りながら利用者や家族の思いに沿った暮らしとなるよう取り組んでいます。往診医や訪問看護師と連携を図り、本人や家族の意向を大切にされた看取り支援にも取り組んでいます。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成30年11月9日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域と共に支えあい、思いやりの介護を提供します」を事業所理念に掲げて、毎月のカンファレンスにより実践状況や実現に向けて話し合いを行っている	法人理念を基に職員間で話し合い作成された独自の理念を継続し、玄関や事務所に掲示しています。毎月のカンファレンスでは理念を念頭に置き、個々のケアや接遇マナーなどを話し合ったり、本人の思いを大切にされたケアができていないかなどを確認しています。今後職員間で話し合いホームの現状に即した理念へ変更したいと考えています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	普段の散歩時に挨拶を交わし、顔なじみの関係をつくり、ご近所付き合いを続けている。また、町内会へ入会し、地域行事には声をかけていただき参加している。	近隣児童館の子ども達とはホームの夏祭りやクリスマス等の行事の際に継続した交流がありすいか割り等を一緒に楽しんでいます。また町内会に加入し回覧板や運営推進会議で地域情報を得て納涼祭に参加したり作品展への出展を予定しています。ギターや傾聴等のボランティアの来訪の他、2校の小学校から体験学習を受け入れ、小学生に向けた認知症サポーター講座も行っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日々の散歩・地域の行事参加や運営推進会議等で、普段の様子や支援の方法についても伝えている。認知症サポーター講座を開催している。また、次世代担い手事業で地域の小学生を受け入れている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、第4土曜日の運営推進会議には町内会長、民生委員、老人福祉委員、地域包括支援センターの職員が参加し、サービスの実施内容の報告や相談、意見交換を行っている。ご家族など参加しやすいように、日程調整や内容の工夫を行っている。	会議は家族や二つの地域の町会長、民生委員、老人福祉委員等の参加の下開催しています。運営や利用者状況、行事、職員アンケート等の報告を行い、身体拘束の取り組み状況等も報告し意見交換をしています。参加者の質問にその都度答えたり、地域行事への案内や声掛けもあり納涼祭等に参加しています。会議は参加者のホームへの理解が深まる有意義な機会となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区役所へは運営推進会議の議事録を持参し、関係づくりに努めている。地域包括支援センターは運営推進会議への参加や認知症サポーター講座を共に開催している。また、主催されている作品展に利用者の手作り作品を展示していただく予定であり、行事を通して関係性を深めている。	日頃は地域包括支援センターと連携しており、行政担当者とは主に法人担当者を通して連携を図っていますが、運営推進会議の議事録は管理者が直接窓口へ届け関係作りに努めています。区役所で行われる会議の案内が届いた際にはできる限り参加をしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日頃のケアカンファレンスで身体拘束ゼロの意識づけを行い、拘束をしないケアに取り組んでいる。夜間のみ、防犯のために玄関は施錠している。また、年1回法人で身体拘束についての研修が行われており参加し、事業所内で伝達研修している。	年に2回法人による身体拘束に関する研修を受講した職員がホームで伝達し全職員に周知しています。行動を止める声掛けなどが見られた場合は具体例を挙げ職員間で話し合ったり、拘束に繋がらない声のかけ方を工夫しています。夜間以外は出入り口の施錠は行わず外に行きたい方にはできる限り付き添ったり、困難な場合でも気分転換を図れるよう支援をしています。	

洛和グループホーム音羽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃のケアカンファレンスやケアのなかで、スピーチロックも拘束に当たると伝達し意識している。また、年1回法人で虐待の防止について研修が行われており参加し、事業所内で伝達研修している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に積極的に参加する体制を作り、必要性を話し合い活用できるように支援している。法人独自のフローチャートを活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ゆっくりと十分に説明を行うことで、理解・納得が得られるよう心がけている。また、不安なことや不明な点がないか確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アンケートを実施し、結果や改善策は運営推進会議や、家族へのお便りで報告している。また、面会時や電話などからさりげなく意見を聞いており、利用者からは日ごろの表情や会話から読み取っている。玄関には意見箱を設置している。	利用者の希望は日々の関わりの中で聞き、買い物や外食などの個別支援に繋げています。家族とはコミュニケーションを図り意見を伝えやすい関係作りに努め、面会時や電話、介護計画見直し時に聞いたり、法人によるアンケート調査も行われています。得られた意見を基に入浴回数を増やしたり、より居室の整理整頓を心がけるなど職員間で話し合い改善に繋げています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスにて職員の意見を聞いたり話し合う機会を設けており、日ごろより職員に声をかけ、話しやすい関係作りに努めている。また、自己申告書に基づいた面談を実施している。アンケートも実施している。	職員の意見や提案は日々の会話や申し送り時、月に1度のカンファレンス、年に2回個別面談の機会などで聞いたり、職員アンケートも実施しています。また管理者は話しやすい関係作りに努め個々に話を聞く機会を作っています。職員は積極的に意見や提案を出しており、意見によっては法人に検討してもらい物品購入や手すりの設置、介護用テーブルの買い替えなどに繋がっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	アンケートや日々の関わりの中からも職員ひとりひとりの状況を把握し、面談だけでなく日ごろより声掛けを行うことで向上心を持って働けるよう心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々のケアや力量評価の実施により職員の力量の把握に努めている。法人内外の研修に参加や伝達研修を行い研修を受ける機会の確保に努めている。また、キャリアパスで評価し、向上できる様、話し合っている。		

洛和グループホーム音羽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の行事に参加したり、ホーム新聞の交換、会議や研修などで交流を図り、意見交換や質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に本人や家族より不安や要望を伺い、アセスメントを行い、安心した生活がいつでも送れるよう関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に家族より不安や要望を伺い、安心した生活が送れるよう関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談員と共に事前に面接を実施し、本人や家族から情報収集を行うことで、必要としている支援の見極めに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる限り家事を共に行ったり、季節ごとにリビングに飾るものを相談しながら作成したり、おせち料理など昔ながらの習わしを伝授していただいたり共に支えながら生活できるような関係づくりを築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでも面会に来てもらえるような声掛けを行い本人との絆を大切にしている。行事の参加や家族との外出など、情報や協力を得ながら、本人を共に支えていく関係づくりを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外にも知人・友人の面会がある。利用者との会話や家族から情報収集を行い、昔話や思い出の場所等の話題を提供している。	近所に住んでいた方や親戚などの来訪時は居室やリビングなどでゆっくり話ができるよう配慮をしています。活動仲間だった方の来訪があり、孫の協力を得て他の仲間に会いに行ったり、家族と馴染みの美容室に通う方もおり、協力を得ながら関係が継続できるよう支援をしています。利用者が重度となり希望も出にくい状況ですが会いたい人や場所などの希望があれば個別外出で支援しています。	

洛和グループホーム音羽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握しながら日々の会話や家事などでお互いに関わり合いを持ち、支えあえるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて連絡や声掛けなどを行い、情報を共有している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりやセンター方式や振り返りシートを利用するなかから思いや希望の把握に努め、その人らしく本位に過ごせるようカンファレンスで話し合いを行っている。	入居に向けては自宅や病院、施設などへ出向き、本人や家族の意向、趣味や嗜好品、生活歴などを聞いたり、サマリーなどから得られた情報を合わせて意向の把握に繋げています。日々の関わりの中で本人の表情や様子等から思いを汲み取るよう努めたり、把握が困難な場合は家族にも聞きカンファレンスの中で思いの把握に向けて検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の関わりやセンター方式を利用し、本人や家族などから情報収集を行い、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりやセンター方式によって現状を記録し、定期的カンファレンスを行い、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の日々の言動・家族からの意見を聞き、カンファレンスなどで話し合いを行い、介護計画を作成している。また、医師や看護師の意見を反映している。	介護計画作成時はアセスメントの基、希望記入用紙を用いて本人や家族、主治医、看護師から事前に希望や意見などを聞きカンファレンスで話し合っています。殆どの利用者について生活援助計画と転倒防止計画を立て、3ヶ月毎に評価し、利用者の状況に応じて6ヶ月から1年の間隔で見直しています。利用者の状況に変化が生じた場合は随時計画を見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に日々の様子を細かく記入し、申し送りやカンファレンスにて、職員間で情報の共有をしている。また、ADLの変化があれば、そのつど話し合い介護計画の見直しを行っている。		

洛和グループホーム音羽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限り安全に配慮しながら、その時々 のニーズに合わせた支援を取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議や回覧板にて情報収集に努め、小学校や地域の行事に参加している。地域資源に対してアプローチを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に協力医について説明し、かかりつけ医の希望を尋ねている。往診は月2回あり、体調の変化や急変時などは電話で相談し、適切な医療が受けられるよう支援している。また、受診が必要なときは家族に連絡・相談し、希望を尋ねている。	入居時にかかりつけ医を選択できることを伝えていますが現在は全利用者が往診医に変更し月2回往診を受けています。協力病院の専門科へ受診の場合は職員が付き添い、同意等が必要な場合は家族も付き添い、受診結果は毎月家族に報告しています。また急な体調変化時は訪問看護師に相談し指示をもらい対応しています。必要に応じて訪問歯科による口腔ケアや治療を受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、訪問看護師による体調チェックがあり、体調の変化など何かあれば24時間体制であり、その都度電話で相談し、往診医とも連携している。 また、ケアプランを配布し、日ごろの情報の共有に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の相談員と情報の交換や共有をはかったり、面会にて状態を確認している。また、家族や本人の意向をふまえ、早期退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取り方針を説明している。終末期と診断された本人や家族の意向を確認し、往診医・訪問看護師・家族と再度意向を確認後、グループホームでできることを説明し、体制を整え、看取り支援を行える様努めている。	入居時に看取りに関する指針を基にホームの対応について説明し意向を確認しています。利用者が重度化した際は医師から家族へ説明が行われ家族の意向を再確認しています。これまでに支援の経験があり、その際には医師や家族、訪問看護師などと話し合い方針を決めています。家族は面会を増やし長時間の付き添い等の協力を得ています。また職員は年に1～2回看取りに関する研修を受講しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が普通救命講習を受講し、実践力を身に付けている。		

洛和グループホーム音羽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署と共に訓練を実施し、結果を運営推進会議やホーム新聞に記載し、地域や交番に配布し地域との協力の必要性を呼びかけている。また、消防署立ち合いの場に限らず、定期的に消防・避難訓練を行い、万が一に備えて迅速に対応できるよう努めている。	年に2回昼夜を想定した訓練を消防署の協力の下、通報や初期消火、利用者の避難誘導の他、寝たきりの方を毛布で搬送する方法などの訓練を行っています。また独自では年に4回、図面上での訓練や利用者の搬送方法などを繰り返し行っています。地域との協力関係作りについては今後の課題としています。	地域の方の協力が得られるよう訓練の開催を近隣の方に知らせたり、運営推進会議の中で協力関係作りについて話し合われてはいかがでしょうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のペースでゆっくりとかかわり、アイコンタクトやジェスチャー、小声などひとりひとりに合った方法でさりげなくトイレ誘導をしたり、利用者の立場にたって、日ごろの言葉遣いやケアをカンファレンスで話し合い、尊厳やプライバシーの確保に努めている。	年に2回接遇やマナー、プライバシーに関する研修を行いレポートを提出することで職員への浸透に努めています。職員へは利用者は目上の方としての言葉遣いや一人ひとりに合わせた対応をするよう伝えています。毎月のカンファレンスでは接遇マナーに関するチェックシートを活用し日頃の言葉遣いなどを振り返り確認しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活のなかで希望を確認したり、二者選択など答えを出しやすい機会をつくり、自己決定できるように支援している。また、家族から情報を収集している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、その時々によっては声掛けを行いながら、希望やペースに添えるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服やカチューシャを選んだり、共に楽しみながら、化粧水・マニキュア・メイクなどその人らしいおしゃれができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材を見ながら利用者と献立を相談し、キッチンやテーブルにて野菜切り・調理・盛り付け・片づけといった料理の一連の動作を共有し、一人ひとりの好みや力を活かしながら、食事の楽しみに活かしている。	食材を見ながら好みを取り入れて献立を決め重度の方もテーブルの上で下拵えや盛り付け等と一緒に職員も同席し共に食事を摂っています。サンドイッチや出張寿司、焼き肉など食に関するイベントは多く、家族との食事の機会も作り食事を楽しめるよう支援をしています。また善哉やたこ焼きなどのおやつ作りを楽しんだり、個別や少人数での外食の他、毎日納豆やヨーグルトを食べる方もおり個々の食習慣にも配慮をしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の献立は検食簿に細かく記入し、量やバランスに配慮している。摂取量は個人記録している。水分は毎食時、10時、おやつ時、希望時など、お好きなものをこまめに補給できるよう支援している。		

洛和グループホーム音羽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きの声掛けや必要に応じてセッティング・見守りを行いながら本人の力に応じた口腔ケアをしている。また、月2回の歯科往診や年1回の無料歯科検診にて、口腔内の清潔保持や口腔内の状態を確認・情報共有している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録などから個々の排泄パターンを把握し、尿便意のサイン・タイミングに合わせてスムーズに排泄ができるように声掛けやトイレ誘導を行っている。	排泄状況が自立している方もおり、支援が必要な場合は排泄の記録から個々のリズムを把握したり、排泄のサインなども見ながら失敗なくトイレで排泄ができるよう声掛けや誘導をしています。一人ひとりに合った支援の方法や排泄用品の選択や変更などは都度職員間で話し合いながら行い、失敗を減らし自立に向けた支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	10時の体操や、階段の利用など適度な運動を行い、こまめな水分補給、乳製品や食物繊維、果物など積極的に摂取することで便秘の予防に取り組んでいる。また、適宜訪問看護師に相談を行い、本人に合わせたケアについて助言を求めている、		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴可能であり、前日に入浴されていない方から声掛けを行っているが、希望があれば安全に配慮し、可能な限り支援している。また、一人ひとりの温度や方法にあわせ、ゆったりと気持ちよく入浴できるように努めている。	入浴は週に2回以上は入れるよう午後から入ってもらい、希望がある時は意向に添って入浴回数を増やしています。入浴の際は職員がマンツーマンで関わりゆっくり会話を楽しみ入ってもらっています。入浴を断る方は原因を探り、声をかける時間をずらすなど工夫し、困難な場合はドライシャンプーや清拭に変更するなど無理の無いよう柔軟に対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調や疲労状態など状況に合わせて声掛けを行い、安心して休息できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員は薬の説明書を各自目を通し、理解に努めている。また服薬についてはマニュアルを作成し、その流れに添って支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の関わりのなかからや家族から情報を収集し、力を発揮できる場や役割を持ち、合唱、デイセンターへ遊びに行くなど楽しみに繋げたり、気分転換できるように支援している。		

洛和グループホーム音羽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外へ行きたい希望があるご利用者とは、職員と一緒に、郵便物をとりに行ったり、1Fの花壇を見る等している。かなり高齢になられているので、体調面への配慮を優先している。	八幡さんへの初詣や近隣の桜を見に行ったり、納涼祭等の地域行事に出かけています。利用者が重度となり外出が困難な状況となっていますが体調や希望に応じて近隣の神社や小学校への散歩、玄関先の花壇で外気浴をしたり、郵便物を一緒に取りに行く等工夫しています。また希望に添って動物園や買い物、外食等、家族の協力も得ながら希望の場所へ出かける個別外出の機会を作っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、ホームにてお金を管理しているが、家族と相談のもと自身で管理している利用者が居る。また、買い物時は預かっているお金から、本人の想いで支払いできるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話をしたり、家族からの電話をとりつぎ、やり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビング廊下に季節に応じた生花やご利用者と作成した設えを飾り、生活感・季節を感じていただける様な工夫をしている。	リビングは庭の花や家族が持参した花を利用者が活けて飾ったり、行事の写真や季節に合わせた作品を利用者と作り飾っています。また利用者同士の相性に配慮してテーブル席を決めたり、リクライニング椅子やテレビの前に寛げるソファを置き、居心地よく過ごせるよう環境を整えています。日々の掃除や換気、利用者の体感も聞きながら室温を調整しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには畳やソファ、玄関にはベンチを配置し、ひとりひとりが、おもしろいおもしろい過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスやベッド、人形や置物などなじみの物や好みの物を家族に依頼し持参している。また、利用者の希望にて家族との写真を飾ったり、外出時に好みの置物を購入し飾ったりとその人らしく、安心できて居心地よく過ごせるよう工夫している。	利用者は自宅から古い筆筒や使い慣れたベットなどの家具、大切な仏壇や家族の写真などを持参し家族と相談しながら過ごしやすいよう配置をしています。また生け花の道具を持参したり、新聞を取り自室で読む方や入居時に畳を入れ布団で休む方もおり、生活習慣を継続し自宅と同じように過ごせるよう配慮をしています。霧吹きや濡れタオルを干し居室の乾燥にも留意しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	センター方式や日々のかかわりの中から「できること」「わかること」を把握し、見守りや声掛けにて利用者のペースで安全に自立した生活が送れるように工夫している		